

研究責任者	舞鶴赤十字病院リハビリテーション科 理学療法士 堀口 遥
本研究の目的	人工関節全置換術を受けられた患者様が、自主トレーニングに取り組まれると、運動機能の回復への効果が高まると言われています。一方では、療法士が患者様へ、直接指導を行う運動の時間や回数を縮小した場合でも一定の成果を得ることができるとされます。しかしこの両条件を組み合わせた場合には、患者様が退院時にどのような機能回復を示されるかについては不明な点が多いです。本研究は、自主トレーニングの有り無しおよびリハビリテーションの量や回数が退院時の運動機能に与える影響を検証することを目的としています。
調査データ	●研究対象者 令和6年1～4月また9～12月の期間に当院にて人工膝関節全置換術および人工股関節全置換術の手術を受けられた患者様 ●利用する情報 1、患者基本情報：性別、手術時年齢、同手術歴の有無 2、患者情報：手術後の活動性、移動能力、在院日数、リハビリテーションの実施頻度 3、機能的情報：膝および股関節の可動性および筋力
研究の方法	術後の急性期治療を終了された地点から退院日までの期間で、A群：リハビリテーション実施頻度を週5回・最大60分/日（自主トレ用パンフレット配布あり）B群：週7回・最大120分/日（配布なし）の両群間において、上に記述の調査データを両群間で比較（筋力についてはB群の前後比較）検証を行いました。
個人情報の取り扱い	患者様に関する個人情報は、当院にて厳重に管理されます。また本研究の結果について学術発表等を行う際は、個人が特定されない方法で記載するなど、プライバシーは厳格に守られます。 同意をいただいて、その後不都合がある場合にはお断りになられても、今後の治療などで不利益になることは一切ありません。
本研究の資金源	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	舞鶴赤十字病院 リハビリテーション科 堀口 遥 電話：0773-75-4175（代表）
備考	

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、お問い合わせ先にお問い合わせ下さい。